



新教科「人間と社会」に向けて

校長 吉田 亘

平成26年度も残り1ヶ月を切った。1年間を振り返って、どんな成長があったか考える時期である。学習目標や行事、部活動など4月の自分から見て、どう変わってきたのかを自覚することは、卒業や進級してからの目標作りにとっても重要なことだ。

さて、5月の学校便りで、「キャリア教育」について触れた。1年生は、従来の「奉仕」の内容にキャリア教育を加えて、新教科の先行実施を行うことを説明したが、どうだっただろうか。

本校には、10年以上継続して実施してきた「進路プロジェクト」があり、その中で多くの社会人や卒業生、大学教授などの話を聞いたり授業を受けたりする実践を行ってきている。新教科としては、生徒がその実践の振り返りを行うとともに、今年度は、それに加えて「上級学校訪問」を全員に実施し、実際に大学で授業や講義を受け、キャンパスや研究施設等を見学した。

今回は、工学系、文系、教育系、生物系と幅広く実施したが、生徒全員が自分の希望する講座となったわけではない。ただ、大学とは何か。研究とはどういうものか。など、自分の知らなかった世界に触れることで、将来を考えるきっかけになった生徒が多かったようだ。

「上級学校訪問」は、2大学5学部の協力で7講座開設することができた。参加した生徒の感想等を一部抜粋すると、「大学の講義なので全く分からないと思ったが、自分にも理解できるような内容で火星の火山活動などとても面白かった。」「全く知らなかった地震研究所を見学することになったが、自分が将来やってみたかった古生物研究分野との関連を知ることができ興味がわいた。地球の内部を知るとは、様々な分野があると思った。」「死刑についての賛否ではなく、死刑についての議論そのものについて討論することに驚いた。教授が授業をするというよりも、学生が主体となって授業を進め、新鮮だった。答えのある勉強ではなく、答えのない学問もあると思った。」「小学生への教授法について教えてもらった。音読一つにも工夫が必要だということを知り、興味深い内容だった。大学生になることが楽しみになった。」「大学の中を見学し、高校とは比較できないくらい大きく、大学キャンパスが一つの町のようにとても興味が持てた」などであった。

「奉仕」の内容については、「奉仕体験活動」として、地域の様々な活動に参加し、子どもから高齢者までの多くの人々とのふれ合いを経験したりした。また、多摩川河川敷清掃などの自然環境保全へも協力した。このことは、この地域を知る大きな力となっていると感じている。

本校などの先行実施校の報告なども踏まえて、都教育委員会は、平成27年度から、新教科「人間と社会（仮称）」を全ての高校で試行実施すると発表した。この教科は、今までの教科「奉仕」に替えて実施される。「奉仕」同様、ねらいは、人間としてのあり方や生き方を考えて、行動できる力を育成することであるが、内容を①地域社会との関係、②働くことの意義、③多様な文化を研究し、共生を考えるなど全8単元から複数単元を学習して、思いやり、責任感、協調性、人権意識や自然愛など広く学んでいくものとなっている。本校では、今年度の成果も踏まえ、内容に「多様な文化」との交流や研究を加えるなどして、「社会と人間（仮称）」の試行を続けていきたい。



教育発達学科での授業の様子



大学キャンパス散策

今、ここに

副校長 野村 悟

以前のことで、伊豆諸島の小さな島で震度7を大きな地震を経験したことがあります。偶々、島の先端の村はずれの外出先でその災害に遭遇したのです。

大地が大きく揺れたその瞬間、全く何が起きたのか把握出来ずにいたのです。が、次の瞬間、目の前と真後ろ50メートルの山の崖が大きく崩れて行くのを呆然と見る中で、自分の置かれている状況に気がつきました。

崖と崖の間隔は100メートルなかったでしょう。仮に、その時の行動が1分前後していたならば、その崩落の土砂に確実に巻き込まれていた……。

今、こうして振り返ると、命の偶然性と必然性というものを考えざるを得ません。

今、現在、ここにいるという事実。

平成26年度という時間が過ぎようとしています。その時を送るにあたり以前に記したことを改めて考え、述べてみたいと思います。

今、私の手元に古く使い込まれた、一本のドライバーがあります。これは15年前に他界した私の父親が生前愛用していたもので、おそらく製造されてから半世紀以上経過した物だと思われます。電気関係の職人だった父は、寡黙な人柄で、普段から物事についてあれこれと細かく話すような人ではありませんでした。よって、父親ときちんとした会話をしたという記憶は多くはないのです。そのように少し風変わりな側面のあった父親でしたが、仕事に対しては熱意をもって取り組み、自分が納得いくまで徹底した仕事を行っていました。採算という経済面を度外視してでもです。仕事を厳選していたともいえますが、そのような事情もあり、私は幼少時代をとて貧しい環境で過ごしました。

しかし、そのような厳しい環境下でも、父親は私たち兄弟に言葉以外の形を用いて、大切なことを教えてくれたような気がしています。たまに語りだし、私に伝えようとするのは、「その時の自分に与えられたことに対し、精一杯力を尽くせ」というような趣旨のことでした。他界してから既に15年経つのですが、古びたドライバーを見ると、その姿勢を思い出すのです。

15年以上の時間を経ても、その道具はあたかも父がそこに存在するかのように語りかけてくるようです。まず手に取ること、そして実行してみる。それらのことをドライバーが物語るのです。まずなすべきことをやってみよ。しないことで悩んでいるよりも、実行することを選び。目をそらすことよりも、自分の手で行ってみよ、と言葉を発しているように感じています。

「汝の手に堪ふることは力を尽くしてこれをなせ」という言葉に出会いました。これは小説家堀田善衛が『空の空なればこそ』という著作の中で紹介している旧約聖書の言葉です。私の心の中では、その言葉が父親の使用していたドライバーに重なるのです。

まずやってみること。そして力を尽くしてみる。そこには、必ずそれを応援してくれる人がいるはず。今自分がいるここにいる世界で、誠実に、出来る限りのことをする。そのことによって、一つの事象は、他の世界につながっていくような気がしています。

この言葉が、今、ここにいる生徒の皆さん、一人ひとりに届けばと願います。

平成26年度という1年がもうすぐ過ぎようとしています。

卒業生のみなさん、卒業おめでとう。

在校生のみなさん、進級おめでとう。

合唱祭を終えて

生活指導部

2月4日(水)目黒パーシモン大ホールにおいて、第8回合唱祭がおこなわれました。1学期の体育祭、2学期の文化祭、3学期の合唱祭。田園調布高校



の3つの「お祭り」が終わったこととなります。行事が終わるたびに感じるものが「生徒の成長」です。日ごろの授業はとても大切ですが、行事も重要だと思います。合唱祭ではそれぞれのクラスが美しいハーモニーを奏でていました。そこに至るまでの経過はいろいろで、実行委員の思いとは別に、あまり積極的でない生徒もいたり、思うように曲が仕上がらなかったり……。それでもどのクラスも、当日の朝まで練習をしていました。結果はともかく、高校生活の大切な一コマとなったと思います。

また、合唱祭実行委員・合唱祭クラス実行委員の生徒は、よくその役割を果たしていました。田園調布高校の良いところですね。

来年は2月17日（水）、会場は同じ目黒パーシモンです。

田高進路プロジェクト

進路指導部

平成27年度大学入試センター試験が1月17日（土）・18日（日）の2日間で行われました。19日（月）に本校で123名が自己採点をしました。

2月16日（月）に今年度6回目のキャリアガイダンスが行われました。最終回の今回は本校カウンセラーの宮川千春先生に「カウンセラーの仕事」というテーマで、「心理学という学問の歴史、心理学の内容の分類、臨床心理学とは、臨床心理士とは、仕事の現況、カウンセラーの仕事の特徴、昨今のカウンセリングについて、コミュニケーションの技法」について、お話ししていただきました。アメリカではベトナム戦争帰還兵の心の治療で心理学の研究が進んだこと、相談者に対して「なぜ～したのか」と聞くのは逆効果で、「～したのには理由があるのですね。教えてください」と聞くのが正しいカウンセリングの技法なのだという事等を教えていただきました。1、2年生27名が出席しました。

3月18日（水）には1年生にライフプランニング講座をソニー生命保険（株）の方をお招きして、翌19日（木）には2年生に合格者座談会を予定しています。

1 学年を振り返り

1 学年 荻原 秀明

3 学期に入り、新一年生の学力検査が実施されました。一年間前の様子が思い出されます。1 年生の終わりが見えてきました。そして、良きにも悪きも田校生として立派に成長しました。学習面について、模試の結果から見れば一言「頑張っている！」と思います。成績上位層の伸長見られます。この調子で3 年生まで頑張れば、高い目標での自己実現が見込まれます。しかし、成績下位層の増大も見られません。毎年の傾向ですが危険水準に近づいています。対策を打たねばなりません。

基本的な生活習慣について、穏やかに暮らしています。整理整頓が苦手な者がかなり増えました。体育館靴を教室に放置、教科書をロッカーの上に放置、ロッカーを開けると私物が落ちるなど多々あります。また、極一部に限られますが遅刻常習者(8 人)が存在します。指導を続けていますが改善されません。ご家庭の協力をお願いします。行事に対する姿勢は、非常に前向きで、良い思い出を築いているようです。

残念ながら、チャレンジせず「むり」と判断して取り組まない傾向が見受けられます。江戸時代後期の米沢藩主の上杉鷹山が家臣に

「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」

を教訓として詠み与えたとされています。まさに、今古人の教訓を学ばねばなりません。

来年度4月に、一回り大人になった65期生を期待しています。

2 学年を振り返って

2 学年 有馬 聡

2月4日に合唱祭が、10日にはロードワーク記録会が行われました。合唱祭で必要なものは、一人ひとりの力はもちろん、それをまとめる力や互いに協力しあう精神です。また、ロードワークは他者と競うというよりも、自分自身との戦い、自己の限界に挑戦するといった側面の強い行事です。2学年の諸君は上級生としての矜恃を持ち、それぞれの行事に臨んだようです。特に合唱祭においては各賞を2年生が独占し、良い結果を残すことができました。来年度は最上級生として体育祭やぼろ祭などの行事の中心となって田園調布高校を引っ張ってゆくこととなります。すぐれたリーダーシップを発揮することを期待しています。

さて、最近の2年A組の学級日誌には「3年0学期ということもあるので（学年末考査で）よい点数をとれるように……」とか「3年0学期の今、もう一度気を引き締めて……」などといった記事が散見されます。2学年の3学期のことを最近では「3年0学期」と呼ぶことがあるということは、前号の「さきはえよ」で触れたところですが、生徒諸君の意識の中に、多少なりとも来年度の受験に向けての意識が芽生えているということが窺われます。先のことを見通して計画的に勉強を進めるのが大切だということは言うまでもないことです。必要以上に焦ることは慎まなければなりません、ぜひとも意識を高め、今の時期にやらなければならないことをしっかりと行うためにも、家庭学習時間の確保など、各ご家庭におかれましてもご協力のほどをお願い申し上げます。未来は独立してあるものではなく、今の延長線上にあります。それぞれの自己実現を図るためにも、今から努力を積み重ねていってほしいものだと思います。

卒業にあたって

3 学年 笹川耕太郎

まもなく3年間の高校生活が終わろうとしています。とても闊達な63期生でした。スマホやラインで象徴される高校生活でした。電話よりラインで連絡すると所在が分からない生徒もすぐに飛んできました。地図が読めない人でもスマホで迷わず集合場所に集まってきました。反面スマホに振り回されて学習時間が犠牲になった人もいたのではと思います。

どんな便利なものも使いようですうまく付き合ってください。

体育祭は団対抗のゲームや騎馬戦、クラス全員リレー、色別の選手によるリレーなど大いに盛り上がりました。応援団のエキシビジョンは朝に夕によく練習をしていました。学年ごとに作った巨大なパネルは素晴らしい画とともに熱い応援席に束の間の日陰をもたらしてくれました。団ごとに声を枯らして応援し3学年が交流できた楽しいイベントでした。

文化祭の演劇祭は受験勉強もあって、スムーズに取り組めたと言えませんでした。委員の人を中心に粘り強く準備を進めました。オリジナルな脚本を作って何度も教室で練習をしました。2度の講演は緊張の空気が流れていましたが無事に終了することができました。安堵と達成感が生徒の顔に満ちていました。

写真を見ていると奉仕活動のものが出てきました。小学校や児童館・保育園で活躍する生徒たちの姿です。地域の子供たちに慕われ親たちに感謝されて気持ちよく活動した20ポイントであったと思います。中には宮城県や福島県の被災地に行き現状を見ながらボランティア活動に頑張った人もいました。

修学旅行・長崎県松浦市での民泊体験は心に残る大きなイベントでした。各地区に入り皿うどん作りや魚の卸し方を学びました。お礼に校歌を合唱で歌ったら地区の人々は驚くやら感激するやら大変でした。各家庭に入って分宿しましたがしばしスマホを忘れ就寝まで交流を深めました。朝集合場所まで地区の人人が車で送ってくれました。今も学校に松浦の人々から事あるごとに挨拶が来ます。

これからも感性を磨き、思考力を深めて人間力をスマホ力以上に高めて欲しいなと思います。